

平成 30 年 7 月豪雨を踏まえた高梁川本川沿川 4 市長との意見交換会 議事概要

日時：令和 3 年 11 月 29 日（月）10：30～11：30

場所：岡山河川事務所（WEB 会議）

【市長から出された主なご意見】

- 令和 3 年 8 月出水では、雨量超過により国道 180 号、県道 4 路線が、また、倒木等により市道、市管理県道 17 路線が通行止めとなった。
- 今次出水では、ダムの貯留により 24cm の河川水位の低減効果があったと岡山県より報告を受け、ダムによる洪水調節効果を改めて実感している。また、河道掘削や樹木伐採も合わせて実施していただき感謝している。
- 中国四国農政局の小阪部川ダムでも事前放流を実施していただき感謝している。
- 国交省には、新見市内の河川監視カメラの映像を川の防災情報に掲載し、映像を下流にも共有できるようにしていただき感謝している。
- 河道掘削や樹木伐採等の河川整備が着実に進捗しており感謝している。
- 高梁川中上流部の河川整備計画（変更）について、迅速に策定していただき感謝している。今後は、変更された河川整備計画に基づき、着実な事業実施をお願いしたい。
- 令和 3 年 8 月出水では、平成 30 年 7 月豪雨と同等の降雨で大変危機的な状況と認識し、沿川の地区に避難指示を発令したが、家屋浸水は発生しなかった。
- 河川整備やダム事前放流等による対策が功を奏したと考えており、住民もこれらの効果を感じているところで、関係者の取り組みについて感謝している。
- 岡山県の高梁川中上流部河川整備計画（変更）が策定されたので、中上流部を含めた流域全体の対策が分かるように資料を更新して欲しい。このような資料を用いて住民に説明をしていかなければならないと考えている。
- 真備地区における要配慮者のマイ・タイムライン作成の取り組みに参加して勉強したい。高梁市においても地域と密着してマイ・タイムライン作成を進めていきたいと考えているので支援をお願いしたい。
- 高校生が実施した建設業の PR に関する取り組みについては、若い世代が建設業に参画できる機会の創出や担い手確保の観点から重要だと考えている。
- 新成羽川ダムの事前放流について、市民に説明する資料をお願いしたい。事前放流による成羽川の水位低減効果算出は難しいと聞いている。しかしながら、取り組みの効果は出ていると実感しているので、成羽川の水位低減効果について検討いただき、その結果をもって住民に説明していきたい。
- 新成羽川ダム他 2 ダムに監視カメラの設置工事を行っており、監視カメラ映像を住

民に見ていただくために、工事を早く完成させたい。

- 高梁川中上流部の河川整備計画（変更）が策定されたが、気候変動の影響がどのように考慮されているのか知りたい。
- 高梁市では、毎年防災訓練を実施している。防災訓練への支援を国交省にお願いしたい。
- 令和 3 年 8 月出水では、これまでのハード・ソフト対策に対し、関係機関が連携して取り組むことによる効果が出てきたと感じている。
- 平成 30 年 7 月豪雨前から、ダム事前放流の必要性を訴えてきた。現在では、高梁川が全国におけるダム事前放流のオピニオンリーダーとなったのではないかと考えている。
- 国、県、市が連携しながら合同で住民説明会を実施できるというチームワークが形成されたと感じており、今後も引き続き支援をお願いしたい。
- 高梁川の河川整備事業は着実に進捗しているが、内水対策にあたり軽部川については岡山県と国交省にも協力をお願いしたい。
- 平成 30 年 7 月豪雨災害から 3 年が経過し、毎年出水期の前後で関係機関が集まり意見交換を行うことに意義を感じており、関係機関同士の連携が強固になっている。全国でもこのような取り組みを実施していくべきと考えている。
- 小田川合流点付け替え事業が 5 割程度、岡山県の事業が 7,8 割程度完了し、事業の進捗が目に見える形でわかり、市民が豪雨前の住まいに戻り始めている。
- 真備地区の復興まちづくりに対し、これまで行ってきたハード・ソフト対策等の事業が寄与していると考えている。
- 高梁川水系河川整備計画（大臣管理区間）変更が検討されているところ、現在の工事を着実に実施して頂くと共に、ソフト対策等の取り組みの強化をお願いしたい。
- 酒津地区の堤防強化、浸透対策、これは笠井堰の改築を含め、整備強化をお願いしたい。
- ダム事前放流について、岡山県、中国四国農政局、中国電力のダムで、各機関ができる範囲で最大限実施して頂いており、地域の安心につながっている。
- 中国電力が管理している 3 ダムの監視カメラ画像を公開していただき感謝している。
- 令和 3 年 8 月出水時では、強い雨が長時間継続したため、住民は心配していた。ダム事前放流は予測雨量を基準にして実施されるため、予測精度の課題はあるが、長雨が予想される場合には柔軟なダムの操作、運用ができるように検討をお願いしたい。

【河川管理者及びダム管理者からの主な発言】

- 河川整備事業、ダム事前放流等の取り組みの効果が出ていることを住民の方にも評価していただいていると感じている。
- 河川監視カメラによる情報共有の効果があつたと伺っており、今後も情報共有を続ける。
- 真備地区における要配慮者マイ・タイムライン作成の取り組みについて、注目されていると伺った。ソフト対策として出前講座の支援や防災訓練等にも協力していく。
- 建設会社においては、平常時の河川改修工事や維持工事に加え、緊急時にも現場に出動し対応することは必須である。建設業界の PR 活動は、将来の担い手確保に繋がることから、関係機関においても取り組みに協力いただきたい。
- 高梁川水系は、事前放流や流域治水の取り組み等でトップランナーとなっていると認識しており、今後もダム管理者と連携しながら取り組んでいきたい。
- 防災・減災、国土強靱化のための 3 か年緊急対策、5 か年加速化対策は、地域から声を挙げて頂き実現に至った。引き続き応援をお願いしたい。国は計画に基づき工事を実施し効果を出していく役目があると考えている。
- 市が的確な避難情報を発令するために、避難計画や地域づくりといった関係機関や部局間での連携が必要と考えている。
- 内水対策は流域治水の観点も踏まえて関係部局（岡山県、市等）と連携して進めて行く。
- ダム事前放流は、実施と検証を積み重ね、雨量予測精度の向上とともに、振り返りを行いながら水位低減の効果的運用に向けて、情報の発信方法も含めて関係機関と連携しながら進めて行く。
- 高梁川中上流部の河川整備計画（変更）を令和 3 年 10 月に変更した。この河川整備計画（変更）は、平成 30 年の 7 月豪雨と同規模における洪水に対して人家の浸水被害軽減を目指すとしている。
- 図面を含めた既存の説明資料等を活用し、県も PR していきたい。
- 軽部川については、国、市と対策について検討中であり、引き続き、検討を進めていきたい。
- 小阪部川ダムについては、各機関と連携しながら流域治水の取組を継続していきたい。
- 新成羽川ダムの事前放流による成羽川の河川水位の低減効果については、河川管理者へデータ提供するなど協力していきたい。
- ダム事前放流については、実施データの蓄積を行い、精度向上を図ると共に緊張感を持って取り組みたい。